

高速鉄道網

ミャンマーへ来年着工 貿易を拡大

中国、ASEANに延伸

【昆明(中国雲南省) 21日 多田俊輔】中国は2011年に昆明とミャンマー最大の都市ヤンゴンをつ結ぶ高速鉄道の建設に着手する。鉄道省や地元雲南省の幹部が25日、日本経済新聞に明らかにした。カンボジアとも鉄道建設の協議を始めた。10年1月に大半の品目で関税が撤廃された東南アジア諸国連合(ASEAN)とのヒトやモノの交流拡大を狙い。車両分野などで日本やドイツなど外資企業の商機も広がってきた。

規格、主導権も狙う

雲南省の羅正富副省長は、昆明とミャンマー、ラオス、ベトナムを結ぶ国際高速鉄道の建設計画を進めていることを明言した。副省長は「高い発展が見込めるASEAN総投資額は約1千億元



(約1兆2千億円)規模に達する見通し。雲南省幹部は、「中央政府の承認を得て、11年前半にもミャンマーとの国境に近い瑞麗から昆明に向けて建設に着手したい」と語った。着工後2年以内にミャンマー側でも鉄道建設を始める計画で、工費は中国側が実質的に負担するとみられる。

走行速度は時速170〜200キロを見込む。鉄道省幹部によると、川崎重工業や独シーメンスが供与した技術や、日立製作所などの中国産部品を活用した中国製車両が採用される可能性も高いと

いう。中国は昆明を起点にASEAN地域との間に4本の高速鉄道建設を検討している。4路線合わせた総延長は1万キロ以上で、中国側だけで1千キロに達する見込み。

トウエを結ぶ路線の建設に着手する。ラオス政府との協議を始めた。このほか、ミャンマー北部を経由し、バンコク、インドを結ぶ路線や、昆明から南東へベトナムを結ぶ路線の建設構想も進めている。中国

政府は早期に4路線すべてを着工し、20年を境目に開通させたい考え。

中国が高速鉄道をASEANに延伸させるのは、ASEANとの貿易拡大を図るほか、中国の鉄道規格をASEAN全体に広めて主導権を握り、鉄道車両などの輸出を拡大したいため。中国は政府、銀行、メーカー、建設会社が一体となって

インフラ建設の受注拡大を狙う。ただ、ASEAN側にも中国の影響が拡大に警戒感が高まる。安い中国製品の流入で関税撤廃措置の見直しを求める声も出ており、中国の思惑通り進むかは不透明な要素もある。